KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT

213
3123
6

特
へ13
3123
6

道中膝栗毛三編 下

東京都立中央図書館
加賀文庫

ものあはれなる弥次のいそがしけるひまにかの先
の馬の駄賃は旅籠屋をあの同とをとりなげ。弥次
が八寸を出て出立をるうち。お宮のいちまが。
新ふくらしぬるもおりしく。夜とともに出るこゝ
巻面の八幡と行る。右よりこの畑が田と
いへる所あれば。弥次さん
干りしぶ〜ものの畑よりひきくへて

あ　ほん山のよ免ゞ田でよもき
とれよう拾年間よりよ新ほどりるよ。時分の
あ内　ゞ　ゞ　ゞ

けんとうまと　大市
ふぎり　あり　サア　何　さぞ　さる市　ヒ　いまし　仏　そんなら
はふろ　きづこと　きまい　さるふ　さるよろ　せん
ノー　よろ　サア　ろく　ト　さて　せるを　むける　ふる　とれい
つれのいれ市　ところで　さろ　ろ　川　ぞろ　ぞん　なる　おぶさ　さる市ハ
むろ　ハ　ヒ　ろ　ろ　ろ

さんざらるんなんのあざさらもいとふ。あく
ざまちを出ーちらっ。ツイおれも川へまつらう
きのぐるぐる。それで一角中ちらーと
ちきちんくらう月のなきくあるぐらし
むこのハちやまき　川のながめよ
一引　ちらちも強へトちてんるア。さむく（トなざ ふるう）
ぐるぐるるんなぐるきのとちぐる（強）ちでほーてもあれめく
角ざちらハりとちうりあ。一引
うるるちを出ーてきあれ。ざこでちとちんて

ちうつてあぐるう。一引（きざ）いまくしい風をひいこパア
ツウシヤミトぐうぐこでとちいるぐうきぐを出ーてきちぐちうこ
ぐうちちる　きりのハちうて川ざけ出りけうとちぐあるくみ川の宿ふいうる
特異の茶屋おんなへおめちよヨあぐうまア。雑（あぐ）と
さんあくと。干（りぐいこ）大根のおちをんのもおざうまアを。
鶏（さこ）の せんで養（ま）もおざうまアを。おちをとこなさん
まアーーー　ぐうりちんいるのうくへしへはべナア。ちくちぐナアーンエ。
ちうるるんナアーンエ。ちちをサア。いれちやナア。ちれるよ（ちるの いすうき）
ちちをナアーンエヨウ。ちうちぐあざうく　（ヒイン）

注二ヲヤきさ八ヲんさ川ぺ。さろきの座敷ぬしが。おそ
ごろ呑でけつらるぺ。この川いらてとがあるぞ。おいらを
川へまめく。ちゃ。ヲイ。はめんなせへ。ちゃのあんるの。おりでなさんまし。ト
釣をまつる。ちゃとうんでつる。やハらの。ざこうの。ちゃとうける。おきくでもなさんまさとう。注二まぐ
く。後がぞんぽこなぐ。注三井のざこうこう。この中よりおきく。大市さけをのこうこうるぶの。二人とちきもつぐ。ハア。さる市
釣つる。ぶぐこうぬよう。ぶぐ。二合中こうをこう。いろ
さる市なア。出てんしゃ。ちゃ。ちゃ。彩まきと。ハイり。

注三八ン目二十四

大市
こうなよ今の川へたまぐ。ぶるこうぶらうどもハぐこう
きこうこう。それよハ。生ぐ。ちろうめこをちこうこう。ト。ちゃくはぷい
ついでひこうこのこ。下はおくこ。きこ八きろこくをこ。ちゃくのさけとのんできまい。ちゃこうこ。ちゃ。
ちゃくのこうこりの。ちゃ。イヤ。さる市こうこ。ちゃ。
であ川こちゃんとおれるおぶさまやアぐ川てこを代
ちをこくこやアぐ川。財ハ。こをけてくれろこ。かなしい
おこぐこと。出こおこ。なんでもかさこうをこるこ
ぐこう。ぶぐけてゐる。ぶ川ぐこう。ちゃこうこあこうこ。ぶ
の戸ぐこうこる。大市こうこあこ。ぐこうでこうこりんこ。ぐこ。

大市

ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを　ゆ〜〜ゆ〜〜ぞんなを

しそ。おちのめさるのんぶ。イヤ　ゆ　さるぶき　ぞへ〜ぶ〜〜〜

そ　ホンニ　ワヒヒ　ト　ちゃう　ところぶ。さけへいろまいもるし〜〜　ぞ　こぶ　さ

そ　ト　ちゃう　ぞ　ぞ　ぞ

しあるどけてさいんな 接客をさしあう。二合の酒が
ふたつ二タ口のむ。りふなたべざせしめんざ ハイ
それは二合。きちもろぞ 法いであげまし。
大ことこざ しなさろことりんぐえて 十二さぞとん
ぐ。高人よ 似合ねとさしあう。付酒代なそち
ひまうせねぞ ちきまきそるぱとえうどぐちよおえんでいる
ざしてワアイ 左所どんのさけゥ。えんなあの人ぐちや
見へついできまへつせらこヨヤ あるよへえんぐこと

りふ コリャア 茶ぐし トリ〜なぐ〜ちやえんの酒とのんで居りフ イヤ おまい
きけくさいへそして 新ぐあるくなる〜 夢ふ。大
うこあの 流の酒とのまきあうる 可 この人もおる
ぐよりふこそも 稲べ。見てが 新のあるくなふと
のハ茶ま 辞このぐ。見しふ見ふこと。ちやを
えんとのむ〜 辞ままこ。酒よろこ人ぐをまくぐ。
茶まよふこと 酒 拾さよへ。ちやだうりふぐくせで
なる〜ぬこと。ちやだうなぐ。ぐるこちやよ。

チャ〳〵〳〵さる市〳〵イキそのまゝくらいぬ。子たへ匹出(しゅつぎ)で。コリヤアこんさ者ぐよこどり(ゆん)てのんぐるちぐひへなん。汚代をちゝふゝしゆれ(ゆん)ちゆれやれ。ちゆりとふちゆりとい
もないこと。ちゆぐゝちゆるちゆ。ちゆいきりゝのんぐふ
ちゆだりう。ちゆとゝしゝものちゆけと。ちゆくぶく
しゝおぐへふごちゆゝぬ。ちゆるんちゆねぐ(チャ〳〵〳〵さる市)〳〵イキ
これ 芸同の月人ぬりのぐゝおりけて。そのちゆゝゝおろ
ちゆれ。ハテ月人てねゝとゞもぐ汚も接(しゃく)人ぐ(ゆん)〳〵すぐ怪(さる市)

るとふ。出てい者あの流(ゆん)の者ゝちゆ月ん。さけく
さんりやいで月ん者ちゆれトゝぐりぬ汚ゝもゝけゝれゆふちゆろ
ちゆひゝとゝ(ヒヤア)ゝ月ん。そして汚でゆちゆゝる。
コリヤバイ。おまいちぐのまゝトいりぬてきふこゝふ(おさまゝぬゝおりひ)〳〵イキちゆけ
代とおりふゝゆれまゝ。ちゆ汚ふのまねゝ。ちゆゝ代い払いぬ。米代ゝる(ちゆ)ゝなんぼ
でもちゝとふいゝゝぐ(ふる)〳〵そんゝゝ米代とおゝちゆ
ん。まゝ米ぐ二合でゝ中宮文(ゆん)〳〵ちゆなんぐ。ちゆとこ

合のんぶ。こゝろも極へ（注一）めんどうみ。きらいて
きまつぶつ。ほめへのきゝるこゝ。なんでもおさ
まらず極へ。ものあるふうちゝ。きらうて きまま
トめうもで きゝもるゝ。ゆハもきゝ（注二）きまる
ゝ。六十四文きまつて きまるゝ（注三）ものゝ。ぜんぶ人ゝちゝ。
大うゝさんきあぶきろゝもぜんゝこゝであろう。
人のゝゝさ酒をよこゞうしてのむゝらふへ。ゝゝ。ゞろ
きゝゝらふものゝ（注四）ゝ。ゞろわゝぶ。このゞうめうゝが
トあらきゝゝうゝ（注五）ちゝめ（注六）ハテ こゝちゝぶ。ゝ。モシ ものゝけんして

こんなせこらのいを寄よ辞うしと。ものはようて。なう
やせぬ。サアちやくしいふ。アイおちゆくばくトいきそくきこハを
おりよひろくそこらを見出へ。ハ。あーぞやよーもくを寄ロ。アエ〜いましこれ。ハ。ハ。ハ

こゝぐ（注二）
るゞ
コリヤ　五月ゆきなんの用ゞ（その男）イヤ　さうまをきを
文下さるませ〳〵（少々）なんのこゝろぞそれでおちつい
ぞ（注二）ッシ　きを文（注二）あつかうきを行とつゞさまをアゲていま
くしん（こゞき）を金めゞトつゞまれるゞ（添川を井さゞ）ぞ（ゆもな
ろのこゝをゞまつくこゝいとをゞゞとおてあきるゞ
ゞ　ゞ　ゞ　

ものじやが。おもてがきよさんきんぢうをとこじや
ヨムのアノ者ハ一ちよこ〳〵さとりれイ。ちうさん
ちうつまちやまと学ぶ。いつも人よみれまりれて
ゆくさうれなんがうつまつ。ちちやちうんが。
おまらぢとも。さぢめて学なきるぢやあろうが。
アリヤ学んが用ぢかるぢ可つちも学ぶうい
ぢ。地面のまゝ〳〵指ケ所いなくしさものぢ。
ちうらぢれぢヨづるまゝ。アひうのちうさん

ちうつ。行ぢ毎いでまゝ方試ル。第公が生方う。
絵ぢ私ぢ一ト〳〵で又まゝ方。そして一行〳〵でも
ヨ小ぢ。その代ぢ試自でかるぢんのまゝ上ハテノ
ヨ〳〵も大人世ハまよ〳〵へうぢそうきんと
いつハ。なんのこりちやいぢ可ハリリヤア湯ケ一行著一行
ちぢ〳〵。内の湯ぢのあ面うう。別ま糸うまうう
ヨ世るまゝ上ハアヨ〳〵ぢうり内でハそ共ハいまとハ
なんまヨハ。そして名ものあ肉湯ハ出〳〵や

せんさいのぞらふよりひさけであつてこまいる（詠二）十二
そやあやアのある酒でものめ給へ〜らいてぞいる
さるぐ。ぞうつの乳（きし）性さ（上方）そーて上方でこうる
ろ信てたぐるぐ。おぞぐの女房へ現人（げんきん）さだらひじや
そよる（詠二）十二所あそこぞでもぞいきこるとぞ（むま）ぜれて久宝
さんとやあやアいくでも貸てよこーやを（上方）
コリやおまくれ。大こせのおきやーじやないとこのそのの
つきこるーやいやーらぐ居（こる）の者よく人

者のそんなーできてゐまもぐ。ぞうこいな
そんなこと。あやあせんとなる（詠二）るくてさぞんな
ぞこのそーア。屋（やう）ぞ記らるの婿（むこ）のできてゐぐか
よこのこのぞ。十二 福人とーやーやー（上方）ハアそんぞう
おまいのおなぐーこ。福ぞーじやらる（詠二）アイ大事（おおごと）さ
（上方）大事の雅（みやび）じやいる（詠二）ぞのまけよ（上方）りーーやあ
（まうと）お稲荷ぞじやこいる。大事やそんなお産まい
なんいもせぬ。コリや（上方）おまく。そんとやーこ。ぞやく

ハテ　あそこゝもありやまとナアきさハ「ヤ」さんきゝ
ゝ。ごまかして安てあるアア。孫八さんおめへきゝ
ゝごぜ。女房覚るらかしてこもなくて。人の法
をきてうぢかて。出ろうぶんだのう。和吉の言い。
金。ヨの。法ゝよごぶ「ヒ」だろうめ。おれごろて
いう孫八りめろ。ちろもッ。ほめへを和ふうれてろこ
ぎやア孫八「ハ」今「コ」あの大屋さんのこむゝの時。
ゝ孫ふ法れもきさはゞん。なるわゞ武家の

はゝめとおぶまかろう。るる及のさ名ゞ。むき
このねゝとかゝけゞめんぶ時の猿へ。えんなおいろが
ゝ「孫二」ておいゝ「ろ」ゝを法くぜ「ろ」ゝをりん。
ちろもゝめと孫。おめへさんまの貴を咽へさて。
紙をゝこいぞい丸呑よもゝゞや孫へゝ「孫二」だろア
いへうぬゞ用もちゞ。おまざけをくゝつて。くちを
やけゞゝまちゝいゝぶゞ「ヒ」ゝれよろう。おめへ
ちゝゞ。ゝ紙入ゞお出ちて。ゝをを法

うんごどやア弱へり。業さしる上方ハ、イヤ左や右まの
ぐらん。そんとゆくゝ云る左ゝ。ぐや見る可・やく
云でもあくでもうんちあり出きる。ぐ行よく
法べこべと考べる。やらうぶ上方ハアこやや出めん
ちなきん。ドレおさ見へまいろよ。トきもとつぶしゝゝゝまあのさうしてあゝ。だるる
ゆきる一ハいまゝいうねゝよ一ぢんるとまされこゝ
このそるゝのうちみるのもゝとちうこゝ小ハアくるびれこゝ。るま
大ゝぢの坂をこゝでよもも石年の宿まらる
でものろへ。るゝ。おまいち。おまアらゝまあいませねゝ。

ゝゝごもへ役ゝ出ゝ。おまぢんて。ちやくくゝをゝん
やゝくいうぢどい。サアのゝつ考りまゝ一きこハのゝ稼ゝ
一安くゝハ家ぢんトるのそうぐんぐでて小ハてようるまのること。
るゝかきりどうる出るひ年ゝちゝあへりんぎんるう
一コレ馬牛ぢん考ゝ天狗へのゝ近ゝがあるゝじやア行へゝ
一アイそゝうゝ京へおぐゝ考ゝるゝ。きゝをゝだゝう。もちく
おぢるハ一るハこをゝ抜ゝ一インまかちゝをでおじるるゝトるるゝ下ハ
ひゝゝちゝをのやくまぐるわハるゆておゝ
考ゝもゝハちゝと行ゝゝう西坂さのれのゝそおゝまゝ一おゝをゝをゝう
やゝゝゝ一ぢいぶのまんぢゝかゝゝゝゝまゝ一ぢあ

さんぺいこうなりけりとておざる　おまへ　おざんせ　今
兄　同志
彦四郎のあんみんがでこうしてふいうごとくまつてゐるかに
伯母
よりてとうのおんだあじんより　けいのでんえんを乗る
ごろうと
きなよ出況はがあるかうあまびながらおざいし
ことこのごろまあどいどう　このこの
いりてようりやく　又
おまへ　おまへ
るべきがるるぞ　もんなるでおざるへ　ぞうで
おまへ　おまへ
のうがよりぶんなるおあどんでござるのう　ぞんど
しぶん　ろう
本所　ハアあいとぞ　ぞうらも若い付ふおざるの

きなふついていきおりてぞ　そのお所とうみとろへ
矢上
なんでもばるべあきんんだりぬることぞのう
小八
それよおいらぐ内も　京内七八年人だりのうしぞ
ろう
リヤアはそんそんるおうりるなぐ服をそくもさいてへ
こめ
のこんでるのアノおあどん　米ういうきまりまを
しぶん　しぶん
ハアきを拝式合　よい西できを合ぐうぬるりやいうま
ろう
ハアおそうる西ゆきハアお本所のぐんなぐ米を西て
ろう人
実しゆそうぐ十二ぞんごとを車で実也へそん

ぐら。五ふいいろ。ちまた。一ぢ。ちまたより。こうと。
二天作のハぐら。二五十。二八十ちぐさ。ちけらまて。
四天の井で。おび。ぐらぬと。ちれべむりんのよの三ヰ八抹
七合五夕だらも。ちよりふう。ハア。なんぐらおるぐら
米屋ハむつうれ。四ちらゆアるうちなんぢ。ハ。ちう
ぬちぐぐ。ちぬふも。ちう。ぬへ。ぐぐ。ぬちのうち。
ぬちく。天ぢふいる。此川ハ信州ちちの湖ち
より出。東の湖を大天ぢ。為と小天ぢといふ。

東ぢ。この大河なり。ぬちハ。ぬちより。ぬちるよ
この湖ぐちちこゆるとて
ちうちう。ちう出て。鍵ぐ
なりこの。さうまく。天ぢの川
東ようあがりて。甚塩の所ふいる。此ハ。ハア
へ。二千里。多郡へ。ハ。千里ぬて。ぬうちみの和
なれば。中の所ぐいへるよう
けんとんの乃中なりで。ぐ。鞋がけ

第五　そぶくへめ　中の所　交合

そしようかんだ。せんぬ田をうちをれる者
おれてくちくる。演おれのゆゝ出ひて　モシ
あるさぶアおゝ分ちおゝ　おゆゝとおゆひやまを
女のいゝのがあるちゝとゆうやせう　さどんぶく
おゝうまを　ゆるゝ　ゆゝ　ゆゝ　あげま
せんで　コレせんを　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

おゝゆアあるゆへ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
くのゆゝあへ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
日ゆゝ。ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ。ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
のゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ
ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ　ゆゝ

中ごゝ引きえへ（うけわけて）サアく（おつきごア）よ中ごゝ（おさんくおざん）
まりさつこ（おさん）おかちやと（お湯ごア）よ（イヤきんなふ）
ほうへよごれもせぬ（そんなうさぐるようおふろよお）
ゆ（ちなさんます）（湯屋）（切へごご）（浴さんこア）
さ（ひへ）ゆ（ひ）（孫へ）（いまく）（しへこと）（ふ男ごゆめへ）
さつきへ（ちいかれ）（中ごゝ女）（とうちイ）（お出なさうまし）（ものへかん）
（ゆいさつ）（ゆ内ありつもごゝ）（さへ）（ちくへこゝるく）
（ごゝ）（ゆ）（ゆ）（ハイ）（あ留へとふおざう）
（ゆ）（ゆ）（ゆ）

さんるさうさんさとやあ及べるかんぐ。時ふかハ。湯ハ
ぞうぞ（ささハちろ）よりあぐ。アいゝ湯〜。あんまりあつくて鬢が
半分ぬれ引のようなること。ハイ（はい）ぜんをあげませう
トこうゆそぜんも出いろ〜あれ（おまへ）をまひ（活二）サア あんまさんやう
やぐそぜんもきゝ。拙子ゆふも入てきまひ
ろ〜そんなら。イヤ時ふ今。ゆどのから及べ。この内
のくさなうちゝぬぐ。病人（びやうにん）及べてろうこぐ〜て
おるぐ。ちろ〜うれころりめぐ（あんま）りイヤ（きちが）ら遠ん
でおぎるいの〜（かハ）きちげ（大事）へでもでべぐ（あんま）ゑへの（イヤきて

ちふさん。今ゝ移（うつ）ん（ぶ）ぶりうたるうまきえ〜（時内うつてのくこ出やきやう）
（ときのおこ〜て）（あんま）
百ろぐんちぐまる。ソレおろんきいあのらもちぐひどよのこの
下女でおぎろ〜ぐ。床（とこ）ていきあぐふり。ほとつけ〜ま
こをぐ。くこきなぐひぐんやきうちやきぐあの女を
ぶ（ぶ）こうたこいこうしてこうぐ〜さこけ出（だ）〜おりはし
こぐころ〜床（とこ）てんしもいる夜（やど）ぐ。それこ〜見ま
かこりておきおろまを。ぞ（ぞ）〜こきなぐやう
まこ〜こうて。こうぐきぐちぐひ。ぐ（ぐ）ぶをくこうて死（し）ふや

アとまり。そんさろと出てい一せん又よいこと。ふーて。
あの女をこちへいのるこ。そ飯ろうこさるのゆう
まるぐろうはいて。あの女ぐろう又ろこるのよう。ふれち
ぐひよるろさりんぐんて。それであんなよ。毎晩百万
ぐんぐろうあうまき（トひそく。まるさま。延ろふ。小八もちかろ。まやるれども。しまくれ。おくびゆう。りの）
小八 ちんぐ幽ゆうまぐろうはいこと。ちのうちへ手ゆう
きいぐ出るうの（あんま）出るぐんうを（延）（あんま）はくぜ（十二）うそ
おやアおざこね。まいぐんこの屋敷のうへよ。まろい

りのぐろうてゆうのこんさろりのぐ。おざうまを（小八）ヤアア
コリヤ。えんぐ。ゆるこるゆう合ヤこ（あんま）それまをあうこるゆぐ
（ぐんぐろう）ぐひとろうこ時の都文ろうふりのぐ。月半ゆこを
ろうろこあいて。まを（いあとおろ）沈をこ。ひ。ぐ。ぐ。ぐ

あるきけるい「こんやるごふきろ〜出そうなんざ
「イヤコレあんまごの。かふけへつてください」又さ〜
き狐のおこぞいちだいらがひきいれるよふざ
「るんすーてもいまし〜いる屋どそそふ「ア「ア狐病
るおこ屋ざ〜〜〜「ア「ア「ア

泳二 コノちくしめるめ。シウ〳〵 百まんべんの チャアンのきこおちる あまこうれ

ホ。こうく ありもあうくしきまいるこうる 世よひるの 去を

みをそうなる

やアんチャ チャン あたいくもよぶ あぶのうちもぐうこと

ひきたん。まぐいきてゆるこうる 泳二 ゆん まいぐく。アの時よ

泳二 ぶ

とまのいことぐある。ゆよふいぐんがゆるふぐ ふぐ あこ

ぐいよゆんぎこ同よあこ 泳二 ゆん〳〵おりひきこて

いろ去よこいうふ 小八 あまこ戸とあけて 泳二 ゆ〳〵ら去を

ぐい トあこうこうこ去ゆこ泳 小八 ゆ 泳一 イヤ

ゆめ人さきへ 小八 ゆふぐ出ゆかりんぐ トあまこをさ〳〵ゆこ〳〵あ

けこ〳〵ころぐゆこゆふへ

のこをこは。去ろいのあぐちうこを去ゆ 泳二 ゆ アア ぐ

ふゆ〳〵。小八 きこうとうこ去を去ゆ

あれを足を 泳二 へ あれこ 小八 ゆ 去こいのぐ向ていゆ〳〵ア

そ〳〵。こ〳〵トぐ足へゆ 泳二 ゆ ドレ〳〵 ふゆくゆぐこいい

あまぐのこをこをろとのぐ泥。これも 小八 ゆ あへ足こ〳〵ゆ。

きこうとうこてぐきこきいここを去ゆ 小八 ゆ コリヤ 泳二 泳二 ぐふ〳〵。

ライ。泳二 泳二 さん ヤアイト あこ

ゆこのこいぎこふゆこのこいゆこうこのこいゆこうはで。

泳二 ぐ きこ こ 泳二 ぐ こ ゆ ゆ ゆ

でこのとふ。おくびゃう人さま出これをとて「イヤ
あれい御保(ドだん)でおざうまと。コリヤ〳〵おさんやいく
日ごくれてを。ゆるりかものをちぜそうこまね。
そしてさうきう〳〵。あ(あの)ぐがろうついてきてまらろし
らちもあれ女どもぐ。おきのどくさる
でおざうまと「十二月」(注二)ろちゃア。ことんとうふことア
きう〳〵稼(かせ)ものぐぐ。ちぜう今おれ中の藤(ふじ)どころぐ
日ろうのとそうる「ハイ」(注四)おやきそるさんまし〳〵(トろうそ ゆく)

(注二)「月」いまし〳〵。大きそうきもをひやつと(やうくよ ん おちつき)
多んさそ出て見あぶるかど女ぐ者だんをとろこえざる。
おうもお用とそしてざうきへそうよだひきらぶりて
ゆう見んとおりひの外よせんぐくの
ぢ西だんの乃ぢうこ見くおぶへこ
をぐめて見ひを保(ほう)ぐ。ぐちつ紙てそうく
ぐ。ぐさんの夏(なつ)をむさぶよ。おどるぐやて名の銘(とう)
の丁名ぢ毎(いへど)ろうひをいさ海ぐさ出(ぢで)の
るのをぐのおぐ。シャンぐまぐの「ぢんよござうぐ

ナアこらかくどぎれよう。おりてくろうと戸で。おくらさを
るよう エリ（ヒイン）こらをがらさま（ヒイン）こと（コトヒイン）ヒイン（ヒイン）あが
あけてそのうーふハもよもやおき出ぜやぞうのてようぜいもらで。
（いそぐ）（ふ）（ふ）（ふ

ゴリヤアだとあちのかんだんでおざるへ「イヤ」
まだ〜〜らへさのであいてそうまでるる「いく」
つもんせまを「ナニ」ミッだろうんを（トゼふとをそうひがさをそびなげうそびうを）
「ハイ」〜〜。「ハイ」さん〜〜「ハイ」ぐんぐらめへものるうちと
ゑれろ「ハイ」ごうぎるうめへ「ハイ」ドレひとつ「ハイ」イヤそれうは
らうどろトをのひくへのせてさーあがと「ハイ」えびがをうちまいとさうをゆ〜〜「ハイ」いまく「ハイ」
てらのをるへうる下ゲどそるる（トううめうをるがめて）
あらうにをげれもせあそのうへる

上中三ページ四　五十六

たるをあうせ〜〜そびのふくさる
わどる〜〜茎（たまぬま）泥。はぐ井もうをおる。（まひざら）舞妓の鈴（えんま）。（ふき）
あふる。是よりあう井まで土手の法上（のう）。
合ぶよるちのうをるるげみも弦中乃（まちう）（き）
さんどれ。紅中おりひ〜〜の雑徒（ざつぞん）。（ぞうぞう）（ぞう）
合。笑ひの走り出（けう）ぐゆるわどる。（やが）ぐるべ
ゐうて。ふ合の人〜〜もる〜〜うそびれ。（なぎ）
柳ごうる射（ひば）とりとげて。紙うをるもあう。

又この風俗(ふうぞく)は、えとれて。はい殿(でん)としてゐるもの。
この場合のうちは。ぜーのところ。みすぼらしいうつむ。おぐきうるわのことをきさるが。ふとうのひげ。むしゃくしゃとしてゐるおやぢ。
人ごのひぎのもとをさぐり。又れうもぐをとりちあげ。きまうよりめを
さぐりもむるよふをゆて。語てぶそのかをさぐまいを。語てぶ
そのほとこそ。コウ きさうなへちゃんぐ。てうるまの秘(ひそ)
とさぐりてゐんとをる。八イ(おやぢ)はゆるされまゝ。ポーい(八ア)
ちゝ殿(ぢ)。なくなりとりのぐどぎるう。おめ(小八)人なく
なりものがあるう。とゆてうづ稲ぐるぐ。
ゆ孫の中でぞんとゆゝとちゃん。ゐんぐなどと

入うきせるう。インニヤ(あやぢ)そんゐのんじゃァどぎるう。ハイヤ(小八)
そんゐう。ゼヱ(ぜヱ)ゆう。ゆゆう。インニヤ(あやぢ)うづ稲ぐとゆふよく
どぎるう。ふぐゆどぎとよふゆのちゃ。人のい稲ゆうを
ゝてゐるうちぞとゝゝァさぐうまゆをとゝァ稲人のうく合
ゆァゐふぐ人ぬいちゆさん。はゐうでゆのぐ人ちゃん
でゆとまぬ。インニヤ(あやぢ)ゆゝくどぎる。ハテ(ハテ)いでとまま
稲へゆよぐ人へゆせん。ハァ(あやぢ)そんゐう。いまとだい。えん
ゐ。びうゝきう。ゐりまをる。ハ(小八)ゐめんぐゆのと

ゆふしてさつてぶれがびつくりさるものゞ〳〵なふが
ヌんへやせん〳〵アイ蛇が一疋ちくるりゃさ〳〵ヤア〳〵
そんごことをつくんぶへびさァなんのるびゞ〳〵なん
ぶべんこつていきさ蛇でござるハ〳〵ヤア〳〵〳〵イヤきさ
きるもそんごすのとりつてきさへびとァちんる
ちよつと〳〵おりゐて〳〵とりゐまきの日るんてら
ふハいわちトさちさいげべぜんちうこゝ〳〵ヤアとの板子の下
ふへごごろとまゐてゐるハ〳〵りりゃさろちのるうへりつさ。

ヨとりやきこの日るんゾし〳〵あけ蕎の吉さへ
ヌひとんぶへコリャまあそんごんぶへのりあへ〳〵さ
とせんちうとをやへひつこりうへし〳〵さちさいぶべぐらのあやぢ〳〵コレ〳〵
あけまとりのけへひをちんのるもまく〳〵つるこゝるふとこゝるるぢ〳〵コレ〳〵
おめへとんぶごことをとるそれとふとこゝへられて
おく〳〵又ヌひ出まとへうこゝへうちあて吉ま
ひるせへ〳〵イヤこゝヤさて〳〵そのハちりゃさね。足ハハァ
きれきのこんぴくうさるへいくりんぶごゞ。足中海鼠
よつきて。きべんよふごごさなんうる。足でこの

ゑびとゝろとさかなゑびつうひよなりて。
きゝ文ゝりうていくゝめんざうゝ。コリヤアヒ[illegible]が。きう
ぎいのうめでぎるハ[illegible]ヤなんが。きゝ文が。きう
ぎかのうめぐゝ。ゑびとりてゐるハゝぐふ
していうきゝよゐゝ。きるものゝ。コレ[illegible]どんなぜ
ゝんなりのとゝ稲よのせゝハアヒーらゝとゝて。
よりやあのハが。ゑびとゝりてゐるよゝとハきう
ませね[illegible]ゝ合　おやぢどん。なんのゝのゝいヒぎゝも。ゑ

せんよぶせんぐ。ゝやゝくゝうハちゝて。きゝい
せハ[illegible]ヤアぶ。なりやゝさゝね[illegible]ゝざアきゝ文
ぐるめよう三へぶちんできゝまゝうぐゝぐ[illegible]サ
ゝゑゐるなゝゝをめて見きゝハしゐい。ヒーふもゝゑ
ぐどぎるハ[illegible]このおやぢ[illegible]ト[illegible]ちゝてゝの
おやぢのむるぐゝとゝろゝ。ゝゝこゝろゝゝぺびのゐ文がゐゝろゝう
ぎる。きゝ八きゝやゝくゝりゝてゝとびのゝく。ゝ泳ゝゝうゝいて文ゐぐゝきゝるよて
おやぢとひよゝくゝハせる。おやぢゝゝゝゝゝゝゝぜんちゝうゝるゝ
ゝりきゝくゝるゝうち。ゝゝのゝハびゝぐ。おやぢのゝゝりゝとゝうゝまちて。のゝゝうまゝるゝ
[illegible]ヤ　まゝ出あゝゝゝぶちゝろせゝ　[illegible]ハゝぶんのヒたぎゝのゝとゝぶゝで

ちゑのしゝへびのあさまとおさへるへびとものまゝさるやまきれつきこるとちよいとうえべるうるげるなどうとよがをべうまるとこ
きるよまうこえうちとゝるるまへびれるこるまられてるとゝまるとゝるれるこへ
とけうろゆうまそるどれるきこハめんどくるくちよげてうるめおやうど
ゑるまてきことるこのり合こるくゝ可ことめでおちういこきうゝおきの
ぞくるこゝこあるこのおこゝのりるぐ可ゝこゝへ
このゝゝまちるぐるまきざゝのるぐれるのこゝぐ
めてるんやこと可ゝけうのあるのせめへこゝとゝいふ
おやぢめぐおうきうのころも川で無ゑうこちち
おうゝじゆしこゝきあやア。ちかもようひもるぐれこ

ゝうるこゝぐ可ゝこゝやアハア。よころぢうが
いこくなうゝやこゝるやゝぢ指ゝいふなふこころ
も川。さいづちぢうるぐれうゝらふるくがあり
りるを。矢けんのさゝてお出やうこゝのりのゝ。
るでこゝらこゝりんぐうゝるぐれるこゝアこぐぎ
んなるんゝ可ゝいるを千おきやアよゝきやるる
きるぢこゝるいめぐ。こゝうるこゝでゝてやうゝトスぐうち
つこゝうゝを詠うゝおゝとめ可ゝりるこゝハらゝやゝのゝ合のきうの

毎年人もあり。まづまれく〜ト是をうぶやうちぶのいまやあり井ちやくなる
ちんどう　サアリ〜お　咲而　まへでぶる。ちさ　ちとしつて。
ひぶとなをきろ　ちやり　ま也ッし〜　ふがあろう
まのきろで　ヤレ〜　こで　このろ合　ろりなくついて。ぶでこれ
〜　ぶとあぶ　ふなハあ〜井のちなよつきれれべのろ会こるく
お　笑而　ちをあぶ　ふ　ちるふ　ハ　ちなをあぶろ
幕　坂　をのり出し〜　ふるハ　今　切　〜　いまぎり
まぶて　く　ひまもあろ井　あぶ　ぶく
きるあて　も。　ぶのりの　ながれろへ。　ぜんぶのこちん　お代　ま也
のちなのろ稼〜。ぶぶ〜ろ井　ぶひつろ小八
竹　角比　をちて〜ちまひし〜男ぶろ
ぶく　ぶふ〜と　ふりふいりれまへ
それよりふろへぶあろ井の　ちなくま汲ろ
かりてあ〜ちやちんぬ

道中膝栗毛三編　終

跋

駿馬の馬子名をとる猪栗毛の文八。
牧の古傳くさ〳〵拾ひ集めを
信濃あるをいとせ千あまりこゝの赤この
里に花あるハ四季情よりうなりをの
ゝろさ毎年てきへて人情と風土乃
歌しるを解。たゞ見し人のゆゑ
なを詠めて名所古跡ハ味ぶきよ

ゆゑ千里の駒も伯楽よ逢ざるは
ゝれのその気なるを知らし。此一部も一
たゞの母衣詠よあゞのうは。伯楽よ
あゝ猪栗毛ふ馬ゆ書。万部も書
きて書籍の梓まゝ出さるを
ゆゑ。の書を敲をこゝろ
の表

清水ゝ笑丸

十返舍一九著

東海道中膝栗毛 四編 五編 嗣出

榮邑堂壽梓

亨保四甲子春發行

書房 東都通油町 村田屋治郎兵衛

6